



# 豊小だより

2022.3.3



今年度の学校評価の結果分析及び対策がまとまりましたので、今年度重点項目に挙げ取り組んだ3点についてご報告申し上げます(各項目のアンケート集計結果は裏面参照)。感染症対策のため、教育活動の変更・修正もありましたが、保護者の皆様をはじめ地域や各種団体・機関等の方々にご支援いただき、一定の成果を得ることができました。心からお礼申し上げます。この結果を次年度の教育活動に生かし、みのりっ子が目指す姿「考える子」「助け合う子」「たかましい子」の実現に努力します。

## 主体的な学習

【取組】各教科等において学習課題や学習活動を選択する機会を設け、自主的、自発的な学びへの興味・関心を高める。

8割以上の児童が「授業に自分からすすんで取り組んでいる」、9割の児童が「授業がよく分かる」と答えています。年間の学習を見通して、児童が学びを次の学習に生かすことができるよう、学んだことを掲示物にしたり、生活に結び付き、興味・関心を引き出す課題を設定したりしたことや、一人1台のタブレットの積極的な活用が、児童の学習意欲向上に繋がったと考えます。一方、推奨してきた家庭での読書や自主学習については、「工夫して取り組んだ」と答えた児童は73.4%にとどまり、目標を達成できませんでした。与えられた課題には意欲的に取り組むが、自ら課題を発見して探究することのできる児童は限られているようです。本や新聞等をよく読む児童の割合、家庭読書が充実していると答えた保護者の割合が低いことから、日常的に、本から新しい知識を得たり、新聞・ニュースから社会事象に興味をもったりする体験を充実させる必要を感じます。自主学習や読書が知的好奇心を刺激し、知りたい、学びたいという思いが課題発見力を高めることを児童が理解し、自主的な学びに繋がるよう取り組みます。

## 人権学習

【取組】道徳科や学級活動における話し合い活動やエンカウンター等の活動を通して、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

今年度「道徳教育総合推進事業『親子で学ぶ道徳講座』」の指定を受け、「思いやり・親切」に関わる授業を一斉に行う「道徳強化週間」の設定や道徳の指導力向上のための教員研修、「道徳講演会」「いじめ予防教室」を実施してきました。「道徳講演会」を保護者に公開することができなかつたため、ワークシートの持ち帰りやYouTubeでの動画配信を通して、親子で道徳的価値について話し合っていたくようお願いしたり、年2回保護者対象の「いじめアンケート」を実施したりしてきました。その成果が児童アンケート結果に表れていると思われます。別途実施した道徳アンケートでも、96.3%の児童が「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う」と答えています。しかし、取組の意図について、保護者の皆様に十分な理解を得ることができなかつたようです。今後は、違いを受容し安心して発言できる集団づくりに力を入れたいと考えています。学級会活動を充実させることで、互いの考えを認め合い、尊重しながら話し合うことができる、児童の「居場所づくり・絆づくり」に力を入れて取り組みます。

## 地域貢献

【取組】「豊地区まちづくりビジョン」をカリキュラムに取り入れ、地域の学習素材・人材の活用を図り、地域に愛着と誇りをもたせる。

外部講師を積極的に活用し(延べ148名活用)、児童が地域とのつながりを強めることができるよう指導を工夫してきました。身近に感じた地域について「地域ふれあい絵日記」に書くことや「みのりの絵」「越前花堂駅のデザイン画」応募作品制作を全学年の夏休みの課題にするなど、地域に対する愛着と誇りをもつことができるよう働きかけました。児童アンケートの結果は目標値の8割には届きませんでした。前述の道徳アンケートでは、96.3%の児童が「今住んでいる地域が好き」と答えています。しかし、児童が学んだことや学習を通して思ったことなどを家庭に持ち帰り、保護者と話し合うことまで想定して学習を進めることはできなかつたため、地域のことについて話すことがよくある保護者の割合は5割という結果でした。今後は、学んだことを発信した結果、児童が地域に貢献できたという思いをもてるよう、発信先の選択や双方向でのやりとり、保護者の皆様と学習成果の共有を図ることに力を入れて取り組みます。



学校評価児童・保護者・教職員アンケートの結果については、  
ホームページトップ画面の「スクールプラン」のアイコンをクリックして、  
「学校評価アンケート結果」のPDFファイルを開いてご覧ください。

